

「食品ロスを考える国際セミナー - さあ、今日から実践! -」

岡本三成外務大臣政務官による御挨拶

平成30年2月2日(金) 15:30-17:30

於: 日本プレスセンタービル(9階会見場)

- 本日は、お忙しい中、「食品ロスを考える国際セミナー - さあ、今日から実践! -」にお集まりいただき、誠にありがとうございます。主催者を代表し、一言御挨拶申し上げます。
- 本日のセミナーの主題となっている「食品ロス」は、外務省として取り組んでいる日本と世界の食料安全保障にも密接に関連するものです。国連食糧農業機関(FAO)の最新の報告によると、世界では8億人を超える人々が飢餓に苦しんでいます。その一方で、食品廃棄の多さが世界的に課題になっており、日本においても、まだ食べられるのに捨てられる、いわゆる食品ロスが年間約620万トンにもものぼります。これは、私たち日本人1人当たりに換算すると、“お茶碗約1杯分の食べ物”が毎日捨てられている計算となります。
- 食料の多くを輸入に頼る日本にとって、食べ物の大切さを十分に理解し、食品ロスを減らすことは、日本と世界の食料安全保障の強化につながる重要な取組です。本日のセミナーは、国連の食料・農業分野の筆頭専門機関であるFAOのダニエル・グスタフソン事務局次長はじめ、食品ロスに造詣の深い専門家の皆様をお招きし、同問題を考えるための機会として企画したものです。
- 食品ロスの削減には日本政府や地方自治体も積極的に取り組んでおりますが、その取組を広げていくことが課題となっております。また食品ロスは日々の生活の中で発生しており、国民一人一人が毎日の生活の中で、少しの工夫と心掛けで減らすことが出来る身近な課題です。
- また、本セミナーのティーブレイク中には、中村親善大使が所属する「料理ボランティアの会」の協力で開発された、福島産果物を使用したフルーツケーキをご紹介いただき、本日御参加の皆様にもご賞味いただきます。同ケーキは、「料理ボランティアの会」の皆様が昨年からは取り組んでこられた復興支援が形になったものであると伺っており、外務省としても、このような諸活動にご協力させていただきたいと考えております。
- 東日本大震災からの復旧・復興は着実に進んでいますが、7年あまりが経過した今も、一部の国で日本産食品に対する輸入規制が見られます。外務省も、在外公館に被災地産の日

本酒を含む日本産食品を購送するとともに、在外公館のネットワークも活用しながら、関係省庁や地方自治体と連携し、日本産食品の安全性に関する情報発信、輸入規制の撤廃に向けた働きかけ、福島産品を含む日本の農林水産品や食品の魅力発信に努めております。

●昨日、グスタフソン事務局次長に宮城県を訪問され、震災からの復興が進んだ様子もご覧いただきました。今なお残る風評被害の払拭に向けても、F A Oとの協力を進められればと思っております。

●本日のセミナーが日本国内での食品ロス削減に向けた機運を一層高める機会となるとともに、本日提供いただく「フルーツケーキ」のような、食べて美味しいメニューや商品の開発が、震災復興支援の一助となりますことを祈念して、私の御挨拶に代えさせていただきます。

(了)